



## 塔村俊介 議員

# 15名以下の極小規模校が 現実になる中、学校再編の考えは

**町長** 手厚い財政措置、地域の拠点確保の面からできるだけ守ってほしい



**問** 子供たちを一番に考えた教育環境について、小学校再編と幼保一元化の観点から質問する。小学校再編については、2年間かけた学校再編委員会および昨年の教育委員会から、特に15名以下の極小規模の小学校については再編を進めるという答申が出ている。その中で高尾小学校の児童数が14名となり、現実になる中で、改めて学校再編の考え方を問う。

**答** 小学校は教育機関であるが、地域にとつて大きな存在であり、可能な限り小学校を守ってほしい。答申では一応15人という所で線引きがき

れているが、生徒数だけで再編の議論が進むのは好ましい方向ではない。また、手厚い財政措置もあり、守って頂く方が私にとってはありがたい。

**問** 今後何人になろうとも、できるだけ残したいという考えか。

**答** 地元の考えを一番大事にし、維持できる人数までは尊重したい。

**問** 教育委員会の考えは。

**答** 安部教育長

高尾小学校については、個別の再編問題として関係者と話し合ってきた。現在は、一定の結論を出す時期と認識している。教育委員会としては、子供の教育の充実という立場から学校再編をすべきと考えているが、地元の意向を尊重して行いたい。

**問** これに関して二点の問題点がある。

一つは、教育委員会制度の観点からである。教育委員会制度は、町長の政治的意向が反映されすぎないように、わざわざ町長部局と教育委員会を分けて設置されている。そのような中で、長い間かけて結論づけられた考えが、この瞬間に変わる

うとしていることである。二つ目は、時間をかけてという方針の中、一刻と時間だけが過ぎていくということである。子供たちにとっては、一年一年が私たちよりも大きい。他地区も含めてより時間をかけるためにも、早い時期から話し合いを進めてほしい。

次に、幼保一元化について、幼児園に幼児教育の思いを受け継ぐかについて、以前、幼児教育推進協議会で話し合いを進めていると伺っている。協議会での議論の内容は。

**答** 安部教育長

協議会は関係者8名でこれまで2回の会議を開催し、来年度は視察、理念、研修のあり方を審議していただく。

**問** 運営形態についてなぜ幼稚園廃園、保育所新設による幼児園化か。民主党が進めることも園も激論となり一筋縄にはいかない難しい問題である。

**答** 安部教育長

幼稚園児数の激減、また町内において働く保護者が多くなり、保育所機能の施設を求めるニーズへの対応等により判断した。

**問** 今後、問題になるのは、保育に欠けない子供たちである。専業主婦や失業中の親などは就学前にどこにも預けられなくなるということである。

**答** 安部教育長

3歳以上の保育に欠けない子供が入園可能になるように、協議する。また、保育時間についても、これまでの幼稚園の保育時間を希望する家庭については、生活時間、指導計画を配慮していきたい。

**問** 町長、教育長へのお願いとして、ぜひ教育現場をみていただきたい。

また、町長は、当初、教育とお金の問題は別と言われたが、小学校を残した方が財政的に有利という発言はやめていただきたいと願う。

最後に仁多米のさらなる振興について、仁多米の販売管理、海外への販売戦略の考えは。

**答** 認証制度までは難しいかもしれないが、独自のルートで販売されている方の意見を聞きながらブランドを守る取り組みをしたい。海外戦略は、まず、韓国からの観光客に対し仁多米をアピールしていきたい。